

●参考図

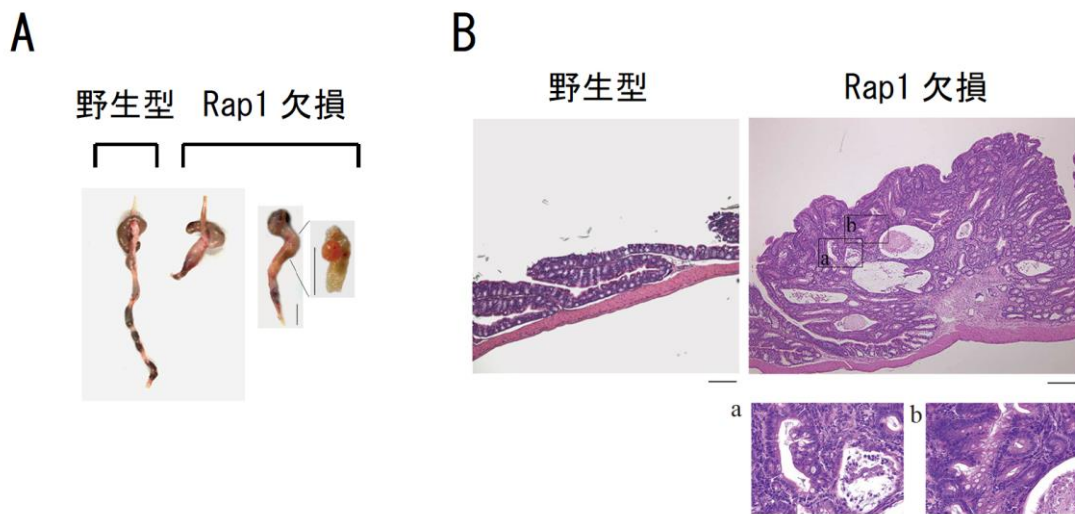


図1 T細胞でRap1を欠損したマウスにおける大腸炎と大腸がんの発症

(A) 野生型ならびにT細胞でRap1を欠損したマウスの大腸。T細胞でRap1を欠損することにより、潰瘍性大腸炎の特徴である大腸の短縮がみられ、腫瘍の形成も認められる。

(B) 野生型ならびにT細胞でRap1を欠損したマウスの大腸（結腸）の組織像。T細胞でRap1を欠損したマウスの大腸に形成された腫瘍に、炎症によって傷害された組織がみられる（aおよびbの部分拡大して下に示す）。

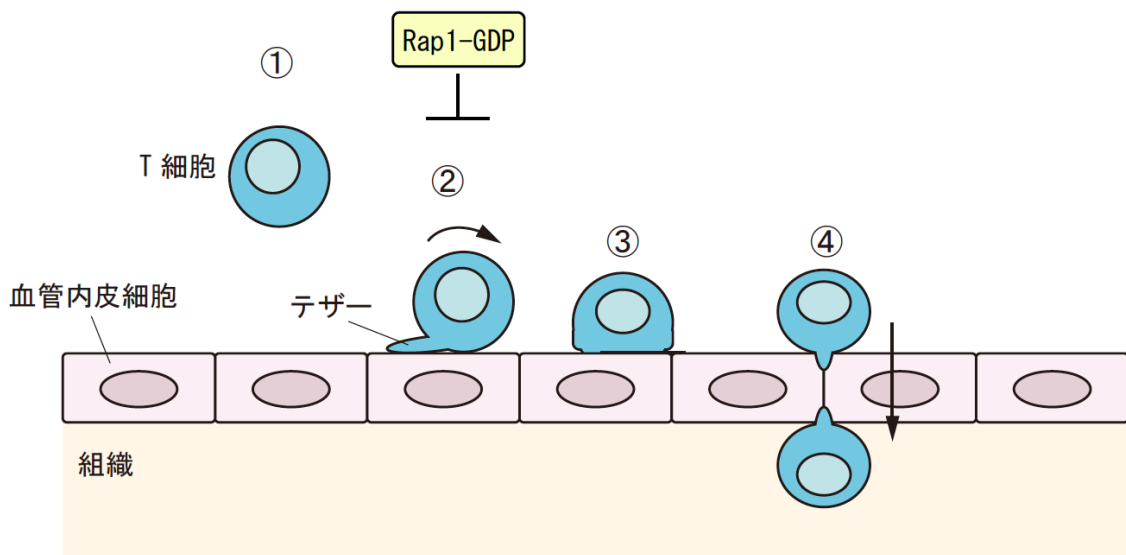


図2 T細胞が血管から組織への移行するメカニズム

T細胞は、通常血流に乗って体内を巡回している(①)。リンパ節や感染部位に近づくと、血管内皮細胞に接着した細胞膜が細長く伸びてテザーができ、血管の内側を転がる(ローリング)ことにより減速する(②)。最終的に、血管内皮上で完全に停止し(③)、血管内皮細胞の間隙を抜けてT細胞が組織へ移動する(④)。GDPが結合したRap1(Rap1-GDP)が存在すると、テザーが形成されにくいので、ローリングが抑制される。